

令和 6 年度事業報告

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

1. 学術集会の開催

第 65 回日本母性衛生学会学術集会を以下のように開催した。

会場開催

- (1) メインテーマ：共創 -持続可能な母子の健康を目指して-
- (2) 会長：金子 政時
- (3) 日時：学術集会：2024 年 10 月 18 日(金)・19 日(土)
オンデマンド配信 2024 年 11 月 1 日(金)正午～11 月 18 日(月)正午
- (4) 会場：シーガイアコンベンションセンター（宮崎県宮崎市山崎町）
- (5) 参加人数 1,671 名（内、現地参加 964 名）
- (6) 講演、シンポジウム、セミナーなど

敬称

会長講演

臨床研究シーズは臨床現場にあり

「先天性サイトメガロウイルス感染症と 3D カメラによる新生児身体測定」

座長： 小川 久貴子

演者： 金子 政時

特別講演（4 演題）

- 1. 5 つ子ちゃんからのメッセージ
座長： 金子 政時
演者： 池ノ上 克
- 2. 新生児殺を防ぐための内密出産
座長： 児玉 由紀
演者： 蓮田 健
- 3. カメラによる豚の体重推定（スカブター）と新生児の身体測定への展開
座長： 金子 政時
演者： 川末 紀功仁
- 4. 最近の母子保健行政の動向
座長： 西口 富三
演者： 石丸 文至

教育講演（6 演題）

- 1. 妊娠と糖尿病
座長： 正岡 直樹
演者： 鮫島 浩
- 2. 助産学共用試験の推進：助産学 OSCE を中心に
座長： 高田 昌代
演者： 村上 明美
- 3. ～安全なお産を守るために～

産科医・助産師の連携による産科医療チーム強化実現へ向けた ALSO の取り組み

座長： 伊藤 雄二

演者： 新井 隆成

4. 症例でみる OC/LEP 製剤と血栓症－安全な使用を目指して

座長： 池ノ上 克

演者： 小林 隆夫

5. 周産期医療における遺伝カウンセリング

座長： 土井 宏太郎

演者： 福島 明宗

6. 妊産婦急変時の対応 ～その時どうする？～

座長： 桂木 真司

演者： 荻田 和秀

2024 年度 JSMHEBP 学会指定研修プログラム (2 演題)

1. 社会的ハイリスク妊産婦とメンタルヘルス：産科・地域保健・精神科の連携システム

座長： 立岡 弓子

演者： 中塚 幹也

2. 思春期からの妊活教育－妊娠しやすい身体作り

座長： 小川 久貴子

演者： 齋藤 益子

シンポジウム (6 演題)

1. 学校だけに頼らない！みんなでやろう性教育！

座長： 高村 一紘、北村 邦夫

① 思春期ピアカウンセリングと性教育

鶴田 来美

② 学外講師 20 年の経験から

赤木 夏代

③ 思春期相談室における性教育

杉村 由香理

④ 医療現場で行うユースクリニック

門間 美佳

2. 産後 1 年までの女性の心身の回復への支援を考える

座長： 米山 万里枝、篠崎 博光

① 本学における産後ケア研究センターの取り組み

島田 祥子

② 母性看護外来（看護専門外来）の実践からみえてきた看護のちから

常盤 洋子

③ 小児科医の立場から、新生児期からの継続的な支援の重要性

有光 威志

④ 産後リハビリ一期における休養時専用リハビリウェアの活用

下山 祐佳

3. 災害対策関連

座長： 鈴木 真、児玉 由紀

① 災害時に地域で妊産婦を守るために必要な基礎知識

鈴木 真

② 令和 6 年能登半島地震における周産期医療地域拠点病院の対応

新井 隆成

③ 熊本地震における災害時周産期医療の対応

－熊本地震緊急周産期医療対策プロジェクトとその検証

坂口 勲

④ 地域における災害時母子支援活動と開業助産師の役割

赤木 夏代

⑤ 大規模災害時に産婦人科施設を支援するシステム（PEACE）とは？

津田 尚武

4. 産後の骨盤底筋群の問題

座長： 橘 大介

① 妊娠・分娩による骨盤底機能低下と、ケアの基本的考え

吉田 美香子

② 産後の骨盤底筋トレーニング

重田 美和

- ③ 産後 X 年後から考える、骨盤底筋群の問題 遠藤 誠之
5. 心の“ゆらぎ”を“ケア”で整える～メンタルヘルスが不調な女性へのアプローチ～
座長： 山崎 圭子、齋籐 知見
- ① こころとからだの養生 横山 顕子
② 私が実践している産後のメンタルヘルスケア 宮下 美代子
③ 痛みや不安へ理学療法的アプローチ 新地 美穂
6. 子宮頸がんを排除するために
座長： 田代 浩徳
- ① 宮崎市における子宮頸がん撲滅への取り組み 黒田 恵子
② 宮崎県における子宮頸がんの現状と HPV ワクチン普及への取り組み 川越 靖之
③ 日本における子宮頸がん検診の実情と宮崎県への提案 小西 宏

オンラインセミナー（3 演題）

1. 分娩期の胎児心拍数陣痛図
演者： 金子 政時
2. 意思決定支援
演者： 土井 宏太郎
3. 新生児フィジカルアセスメント
演者： 児玉 由紀、渡邊 祐子

特別企画ワークショップ

－体験してみよう－（超音波・分娩介助・器械分娩など）
助産師・若手医師を対象としたハンズオン
プランナー： 谷垣 伸治、石川 紀子

市民公開講座（1 講座）

日本神話にみる母と子～トヨタマヒメの出産の物語を中心に～
座長： 長鶴 美佐子
演者： 大館 真晴

（7）一般演題 323 演題 口演 171 演題（内、コメディカル愛育賞候補 9 演題）

2. 機関誌及び図書の刊行

本会の機関誌はオンラインジャーナル化し、会員はホームページの会員マイページより無償にて閲覧できる。

非会員においては、国立国会図書館、株式会社メテオ（メディカルオンライン）、国立研究開発法人 科学技術振興機構、医学中央雑誌刊行会を通じて閲覧できるとともに、本会事務局への申し込みで個々に受付け有償にて閲覧できるようにしている。

また、EBSCO に情報提供している。

オンラインジャーナルは以下のように掲載した。

（1）65 巻 1 号

第 64 回日本母性衛生学会学術集会シンポジウム

- [1] 高年妊産婦支援の未来 富松 拓治
- [2] 子宮頸がん撲滅の未来戦略 上田 豊
- [3] アジアの母性衛生の夢と未来 Prospective postpartum midwifery in Asia Emiko Suzui
- [4] 科学で育児を支える 谷池 雅子
- [5] 出生前診断から胎児治療へ 遠藤 誠之

原 著

1. 妊娠後期の抑うつと心理社会的適応状態との関連
— COVID-19 流行下における横断研究— 志摩未来, 他
2. 4・5 か月の第 1 子をもつ母親の育児不安とその関連要因
—母親のセルフ・コンパッションに着目して— 北原玉依, 他
3. 双子の母親に対して同時授乳を支援することと助産師としての自信との関連 上田さつき, 他
4. 産後 1 か月における母子の睡眠環境及び乳児窒息に関するヒヤリ・ハット経験の実態と関連因子の探索 徳武千足, 他
5. COVID-19 流行下における母子保健活動の変化と保健師の思い 笠真帆, 他
6. 予期せぬ妊娠をしたかもしれない若年女性に関する意思決定エイド
—冊子タイプと SNS 版の表面妥当性の検証— 穴戸恵理, 他
7. 新生児をもつ初産婦への state を用いた指導がもたらす母親役割の自信獲得に対する効果
松元雅美, 他
8. 母親のレジリエンスと育児不適応との関連についての研究 嶋紋華, 他
9. 助産院宿泊型産後ケア利用後の母親の育児に対する思い 岡田風香, 他
10. 更年期症状を自覚する女性の婦人科受診にいたらない要因の検討
—ペンダーのヘルスプロモーションモデルを使って— 外村晴美, 他
11. 出産後の母乳育児状況と授乳トラブルへのセルフケア
— 1 施設における産後 6 か月間の縦断調査から— 中里有加, 他

研究報告

1. 母親が退院後早期に感じる育児不安の要因 森本眞寿代, 他
2. 両親学級における母性に関連した表現に関する文献レビュー 笥侑子
3. プレコンセプションケアの知識に関する実態と課題 中島千英子, 他
4. 母乳不足感をもつ母親に対する国際認定ラクテーション・コンサルタントによる
エモーショナルサポートの実態 薬師寺日菜, 他
5. 死産を経験した女性への退院後の継続看護と看護職者の困難感 土肥真由子, 他
6. 健康な乳児を育てる母親が感じる育てにくさと子育ての捉え方 平田良江, 他

学習コーナー

- ・「働き方改革」について 第 2 部 (その 1) 海野信也
- ・がん・生殖医療 ～男性患者の妊孕性温存編～ 中村健太郎, 鈴木直

原 著

1. 授乳姿勢の違いが母親の上肢体幹筋活動と乳児の哺乳に与える影響 武田要, 他
2. デートDV 被害の自覚のない交際中の大学生男女のデートDV 被害の有無とパートナーとのコミットメントの関連 井上朗江, 他
3. 産後1か月の育児不安尺度開発と信頼性・妥当性の検討 川崎寿磨子, 他
4. 分娩時における医師と助産師の連携に対する医師の認識 末延睦与, 他
5. 助産師教員キャリアラダーの各レベルに必要な能力 新名(中村)美佳, 他
6. 助産師が捉える無痛分娩を選んだ女性の経験 中理恵, 他
7. NICU・GCUに入院している乳児の泣きに対する看護師の捉え方 島田美香, 他
8. 母側の要因で予想外の断乳に至った母親の心理的受容プロセス 夏目悠都里, 他

研究報告

1. 正規雇用就労女性の就労と妊娠出産育児に関する主観的体験 宮地友里, 他
2. 母親が認知した不快性射乳反射(D-MER)の身体的・精神的感覚 岩佐志美, 他
3. 妊婦の歯科健診受診行動に関する影響要因 原明日香, 他
4. 本邦における産後ケア事業の実態調査 牛越幸子, 他
5. 思春期の子どもをもつ親の家庭内性教育を支援するプログラム開発に関する国内外の文献レビュー 市戸優人
6. 死産後のカンファレンスの実態と看護管理者が捉える課題 藤井亜瑚, 他
7. 新型コロナウイルス感染症流行下の妊娠糖尿病妊婦の療養行動と関連する要因 能町しのぶ, 他

学習コーナー

- ・「働き方改革」について 第2部(その2) 海野信也
- ・「働き方改革」について 第3部 産婦人科医の働き方改革 海野信也
- ・がん・生殖医療 ～女性患者の妊孕性温存編～ 中村健太郎, 鈴木直

(3) 65巻3号

第65回日本母性衛生学会学術集会抄録集

(4) 65巻4号

原 著

1. 女子学生の月経異常による受診行動継続に至るまでの行動変容ステージモデルの適用に関する研究 外千夏, 他
2. A地域周産期母子医療センターで出産した褥婦への助産師による産後2週間健診の精神面への効果 木村(安藤)聡美, 他
3. 知的障害のある親の母子健康手帳の利用実態と改善点の検討 藤澤和子, 他
4. 就業女性のプレゼンティーズムと月経に関する課題に対する吸水ショーツの効果 武田江里子, 他
5. 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術後に双子1児死亡となった母親を看護する助産師の感情—助産実践能力習熟段階レベルによる比較— 清水天, 他
6. 産後1か月における授乳に関わる夫の思いと行動 金谷真美, 他

7. 周産期病棟における自動運転システム搭載電動車いすの活用に関する検討 山下伶香, 他
8. 無痛分娩を選択した産婦の出産体験の自己評価に関連する要因 高崎洋子, 他
9. 産褥 1~4 日目の産婦の身体的疼痛の部位と経日的変化 時津麻乃, 他
10. 統合失調症をもつ女性に対する産前・産後の精神科訪問看護
～ケア内容の実態と看護職の困難感～ 金内里美, 他
11. 初産婦の夫が立ち会い分娩を振り返った体験 山本菜々美, 他
12. 不妊治療中の就労女性のストレス状況, 対処法および求めているメンタルヘルスケア
生田寿波, 他
13. 乳児を育てる母親の Well-being 田中奈美, 他
14. 助産師が経験から察知した自殺リスクが高い産後 3~4 か月女性の要因 福田陽子, 他
15. 看護系女子大学生における尿失禁の実態とその関連要因 浅井百合絵, 他
16. 若年女性における冷え症の有無による皮膚表面温度の違い
一 月経周期別の比較一 白石三恵, 他
17. 喫煙パートナーと妊婦に対する同時禁煙支援教育の効果
一 禁煙への行動変容と親性の関連検討一 林資子, 他
18. 1 歳 6 か月~2 歳未満児を持つ父親の親役割に影響する要因と父親の親役割と母親が認識する
父親の親役割及び母親役割肯定感の関連 前原敬子, 他
19. ハイリスク産婦に対する分娩時の予防的ケアにあたる熟達助産師の懸念 辻まどか, 他
20. 麻酔分娩と非麻酔分娩の分娩時出血量の比較および初産婦の出血量への影響要因の検討
寺口顕子, 他
21. 多胎児を持つ母親の乳幼児期における育児の困難感の実態 佐藤榛香, 他
22. 産科病棟で働く助産師のワーク・エンゲイジメントと妊産褥婦との関わりにおける
パートナーシップの意識との関連 藤井恵理奈, 他

研究報告

1. 月経随伴症状により欠席経験のある看護学生の月経への対応の現状 福田桃子, 他
2. 泣きやまない乳児とその母親のアセスメントの視点に関する文献検討 菊池さよ, 他
3. 産科混合病棟に勤務する助産師の職務継続への内発的動機づけ 岸野真弓, 他
4. 院内助産との比較による助産所分娩の安全性 武藤香子, 他
5. 妊婦の禁煙支援を継続する助産師の思いの構造 山下玲子, 他
6. 3~4 か月児の母親の孤独感と出産に対する自責感及び被援助志向性との関連 渡瀬花音, 他
7. 妊娠期の妻を持つ夫同士で語り合うことの体験 渡部紗季, 他
8. 保育所及び認定こども園等で勤務する看護職の保育保健活動 北山富子, 他
9. 高校生の妊孕性知識の実態と関連要因 武田恵梨子, 他
10. 発達障害特性を有する女性の第 1 子における妊娠・子育ての体験 小寺樹里, 他
11. 就労妊婦のつわり体験 常盤玲華, 他
12. 緊急帝王切開となった産婦の家族に対するケアの実際と看護職の思い 中沢愛実, 他
13. 新生児期の親の育児における不確かさを生じる体験と思い 三里久美子
14. コロナ禍で修了した助産学生の技術到達度と職業的アイデンティティ
一 A 大学における修了時の 1 期生と 2 期生の比較一 小幡さつき, 他
15. 分娩方法および出産施設を選択するための妊娠前および妊娠中の女性とその家族・パートナーへ

意思決定エイド試作版の開発 丸山萌，他

16. COVID-19 陽性妊産婦の分娩に携わった助産師の体験 原百子，他

17. 葉酸の補足と妊娠間隔に関する産科医療者からの産後の保健指導の実態と女性の意識 曾山小織

18. 全国の分娩取扱施設における産褥入院中のバースレビューに関する無作為調査 坂本晴音，他

19. 双子の子育てにおける親の支えに関する文献レビュー 楠永 敏恵

学習コーナー

・がん・生殖医療 ～小児患者の妊孕性温存編～ 中村健太郎，鈴木直

・『母子保健の歴史』（1） ―私達が見てきた昭和から令和― 遠藤 俊子，山本あい子

3. 母性衛生の啓発普及、関連諸団体との連携

(1) 市民公開講座

①開催日：2024 年 10 月 19 日 場所：シーガイアコンベンションセンター

・日本神話にみる母と子～トヨタマヒメの出産の物語を中心に～

演者：大館真晴（宮崎県立看護大学教授） 座長：長鶴美佐子（宮崎県立看護大学学長）

②開催日：2025 年 1 月 31 日 場所：ビジョンセンター品川 205 号室

（東京都港区高輪 4-1-8 京急第 7 ビル 2 階）

パパがんばる「父親の産後うつ」と育児支援

主催者挨拶 公益社団法人日本母性衛生学会常務理事

岡山大学学術研究院保健学域教授 中塚 幹也

座 長 公益社団法人日本母性衛生学会常務理事

神奈川県立保健福祉大学学長 村上 明美

講演 1. 「赤ちゃんとうちの父親」を取り巻く環境 今、何が求められているのか？

国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部長 竹原 健二

講演 2. 職域から見る、産後の父親が置かれた現状」

一般社団法人 Daddy Support 協会 代表理事 平野 翔大

講演 3. 妊娠中からの「父親の産後うつ」のスクリーニングと介入の課題

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科教授 木戸久美子

総合討論. 日本の父親 今、求められている支援

(2) 都道府県母性衛生学会代表者懇談会

開催日：2024 年 10 月 16 日 場所：シーガイアコンベンションセンター

都道府県母性衛生学会代表者が参加し、都道府県の活動について話し合った。

(3) 後援

・神奈川県母性衛生学会からの第 38 回学術集会に関する後援名義

・日本産科婦人科学会からの 2025 年 3 月 1 日～3 月 7 日実施「女性の健康週間」に関する後援名義

(4) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

・総会（5月WEB、3月会場）出席（2024年5月25日、2025年3月15、16日）

(5) 第24回健やか親子21推進協議会総会出席（2024年11月19日）

(6) 動画配信：①第65回学術集会 オンデマンド配信

2024年11月1日(金)正午～11月18日(月)正午

②2024年度公開講座 パパがんばる 「父親の産後うつ」と育児支援

4. 母性保健に係わる公開講座の助成

・助成金は、毎年2回の募集を行っている。

2024年度 第1回については、高知母性衛生学会へ20万円の助成をおこなった。

第2回の応募はなかった。

5. 各種広告・宣伝に関する事業

・株式会社未来からの広告をホームページに継続掲載（1年間）

・太陽生命保険株式会社からの広告をホームページに継続掲載（1年間）

・公益財団法人日本医療機能評価機構からの広告をホームページに掲載

（契約満了のため2024年8月31日まで）

6. 会員相互扶助に関する事業

(1) 学術優秀賞及び奨励賞の論文の選考

・学術論文優秀賞及び奨励賞の授与

学術論文優秀賞

題名：清拭素材の特性がヘアレスマウスの皮膚バリア機能に与える影響

著者：森 楓、樋口 幸、小嶋 光明

掲載：64巻1号

学術論文奨励賞

題名：NICU 患児に対する母親の関わりと産後抑うつ傾向の関連

著者：村上 朋恵、朝澤 恭子

掲載：64巻4号

・優秀演題賞の授与

コメディカル愛育賞

題名：妊娠後期妊婦の下肢浮腫に対する弾性ストッキング装着の効果

一下深部静脈速度と血流量の測定を通して一

著者：森 かのん、越山 雅文、渡邊 友美子、岡本 紀子、柳澤 奈美、馬場 愛莉、

生田 宴里、小野 あゆみ、関 恵子、中川 美和、坂本 眞一、原 洋子、中島 彰

掲載:65 巻 3 号

題名：ウェアラブルウォッチを用いた妊娠中期の身体活動量が及ぼす妊娠後期の腰痛への影響

著者：高橋 彩華、細坂 泰子

掲載:65 巻 3 号

題名：トランスジェンダー当事者が経験する職場での SOGI ハラスメントとメンタルヘルスの状況

著者：江口 珠美、横溝 珠実、岩田 歩子、小野 裕香、難波 玲奈、田中 映里、中塚 幹也

掲載:65 巻 3 号

題名：ICT を用いた産婦健康診査への遠隔システムの検討

著者：大井 伸子、古谷 真実、藤岡 まゆみ、増山 寿、鶴嶋 知香

掲載:65 巻 3 号

(2) 名誉会員・功労会員の表彰

以下の名誉会員 1 名、功労会員 1 名が承認された。

名誉会員 高橋 健太郎

功労会員 金山 尚裕

(3) 慶弔費

今年度は該当がなかった。

(4) 研修会及び講習会による教育支援及び認定

① 2023 年 10 月より開始した教育認定制度 JSMHEBP は、第 1 回 JSMHEBP 研修プログラムとして「周産期ハイリスク分野」、「周産期メンタルヘルス分野」の 2 分野を開講した。周産期ハイリスク分野 71 名、周産期メンタルヘルス分野 75 名の受講申し込みがあった。CBT (Computer Based Testing) 試験は 2024 年 7 月 14 日に Zoom と Google フォームを用いて実施した。最終合格者は両分野ともに 33 名であり、ホームページに認定者を公開している。

2024 年度内での申請および受講、CBT (Computer Based Testing) 試験が実施できるよう、第 2 回 JSMHEBP 研修プログラムは第 1 回と同じ「周産期ハイリスク分野」、「周産期メンタルヘルス分野」の 2 分野のみ開講し制度の運用整理を行った。

第 2 回 JSMHEBP 研修プログラム 2 分野の受講者は、周産期ハイリスク分野 27 名、周産期メンタルヘルス分野 28 名であった。

2025 年 2 月 23 日、第 2 回 CBT (Computer Based Testing) 試験を Zoom と Google フォームを用いて実施した。最終合格者は周産期ハイリスク分野 17 名、周産期メンタルヘルス分野 18 名であり、ホームページに認定者を公開している。

② 2024 年 10 月 18 日、19 日第 65 回日本母性衛生学会学術集会で認定制度の指定プログラムを実施した。

- ③ 2024 年度内での申請および受講、CBT (Computer Based Testing) 試験が実施できるよう、第 2 回 JSMHEBP 研修プログラムは第 1 回 JSMHEBP 研修プログラムと同様、「周産期ハイリスク分野」、「周産期メンタルヘルス分野」の 2 分野のみ開講し制度の運用整理を行ったため、「研究の基礎に関する科目」12 本、「周産期メンタルヘルスに関する科目」9 本、「周産期ハイリスクに関する科目」14 本の e-learnig 動画教材を 2024 年 8 月 10 日～2024 年 11 月 20 日までの期限で e-learnig 動画を配信した。
- 2025 年度は引き続き「周産期メンタルヘルス分野」、新たに「リプロダクティブ・ヘルス分野」の 2 分野を開講し、2026 年 2 月末に CBT (Computer Based Testing) による最終試験の実施を予定しており、引き続き会員の教育支援を行う。